

熊取町埋蔵文化財調査報告 第3集

熊取町 南部開発に伴う  
埋蔵文化財分布調査報告書

1987年3月

熊取町教育委員会

## はしがき

熊取町内では現在 32ヶ所の遺跡が存在しています。こうした遺跡やそこから出土した遺物は、私たちの歴史を知る上で先人が残してくれた貴重な文化遺産です。

本町域では、近年住宅建築に伴う宅地開発が急速に進んでいますが、本町教育委員会では、開発関係者等のご理解とご協力を得て、遺跡範囲内での事前の発掘調査や或は工事計画地での立会・分布調査を実施して参りました。

昭和 61年度のこれらの事業の中で、南海電気鉄道株式会社が進めている熊取町南部開発地の埋蔵文化財の分布調査を実施し、ここにその概要報告書を作成いたしました。

この分布調査によって、平安時代と思われる瓦をはじめ多数の遺物が採取され、古代から近世への移行期の姿を類推する上で貴重な資料となるものと期待しております。

なお、この調査及び報告書の作成に当ってご尽力いただきました方々並びに関係各位に対し感謝の意を表します。

昭和 62年 3月

熊取町教育委員会

教育長 原 治 平

## 例　　言

1. 本書は、熊取町教育委員会が南海電気鉄道株式公社の委託をうけて実施した 泉南郡熊取町所在の同社が計画する宅地造成地内の埋蔵文化財分布調査報告書である。
2. 調査に要した費用は全て南海電気鉄道株式公社の負担による。
3. 調査は熊取町教育委員会嘱託井田匡を調査担当者として昭和61年11月25日着手し、昭和62年3月31日終了した。なお調査における事務連絡等は町史編さん室根来光恵がおこなった。
4. 調査の実施と整理にあたっては小西辰夫、古武秀智、根来龍也、根来和男、津村知宏、鈴木利明、藤原育男、二反田茂樹、金納圭吾、成川憲明、木戸えり子、森下恵子、渡辺由美子、白木千佳子、庄司恵子、富村伊都子の諸氏の参加と協力を得た他、坪之内徹、玉谷哲の両氏より有益な助言を得た。また南海電気鉄道株式会社並びに関係各位より多大な協力を得た。明記して感謝の意を表したい。
5. 本書の執筆、編集は井田がおこなった。
6. 調査にあたっては写真記録のほかカラースライドを作成した、広く利用されることを望む。

## 目 次

第 1 章	沿革	
第 1 節	調査に至る経過	1
第 2 節	周辺の環境	1
第 3 節	調査区の設定と調査方法	2
第 2 章	調査成果	
第 1 節	各地点の状況	4
第 2 節	採集遺物	5
第 3 節	小結	7
第 3 章	植物分布と小字名について	8

## 図 版 目 次

図版第一	調査区域周辺航空写真(西半部)
図版第二	調査区域周辺航空写真(東半部)
図版第三	調査区域周辺
図版第四	調査区域周辺
図版第五	調査区域周辺
図版第六	調査区域周辺
図版第七	調査区域周辺
図版第八	採集遺物
図版第九	採集遺物
図版第十	採集遺物

## 挿 図 目 次

第 1 図	熊取町の位置	1
第 2 図	南部開発計画地位置図	2
第 3 図	遺物採集地点図	3

第 4 図	採集遺物(1)	6
第 5 図	採集遺物(2)	6
第 6 図	採集遺物(3)	7
第 7 図	調査区域周辺植物分布図	8
第 8 図	調査区域周辺小字名図	

## 第1章 沿革

### 第1節 調査に至る経過

南海電気鉄道株式会社が宅地造成を計画している熊取町南部地区周辺には、周知の遺跡が数多く存在し、遺構・遺物が発見される可能性が極めて濃厚な地域である。しかし残念ながら現時点では、その全てにおいて遺跡の性格及び範囲の把握にまで至っていない。

この南部地域の開発に伴い、本教育委員会から埋蔵文化財の有否確認の必要性について指導を受けた同地の所有者である南海電気鉄道株式会社から、調査に関する申請がだされ、これに基づき申請者と協議した結果、分布調査を実施することになり、昭和61年11月17日付をもって受託契約を行った。以上が調査に至る経過である。

### 第2節 周辺の環境

大阪府の南部、泉南地域に位置する熊取町は、基盤山脈である和泉山脈より丘陵及び洪積段丘の高位面が派生し、その前縁としての洪積段丘中位面や低位面で構成されている。また河川の下流

には沖積段丘や氾濫原は狭小であるが存在する。調査地は和泉山脈の一部から派生している洪積段丘の高位面及び中位面にあたり、山林や田畠が広がり、地形を有効に利用した溜め池が谷筋に点在する農村風景である。しかし近年、宅地の造成に伴う住宅建設が進み、各所でその景観も変わりつつある。周辺の周知の遺跡としては久保城跡、城の下遺跡、下高田遺跡、成合寺遺跡、花成寺跡、鳥羽殿城跡、墓の谷遺跡があげられるがいずれもその規模、性格の把握にまでは至っていない。



第1図 熊取町の位置

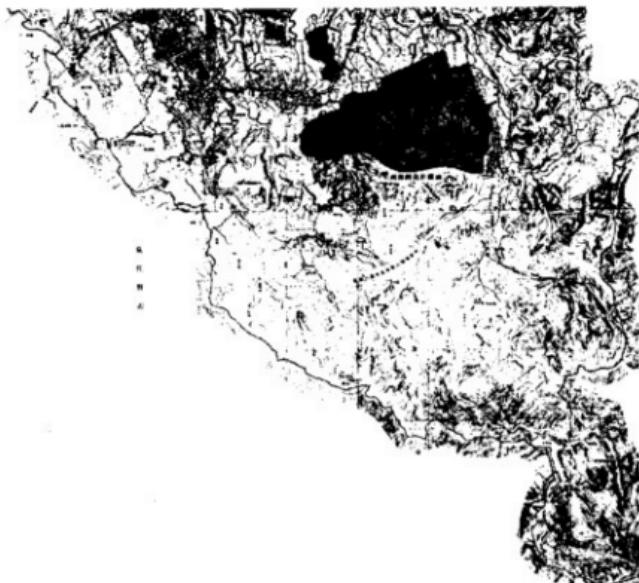
### 第3節 調査区の設定と調査方法

#### 調査区の設定

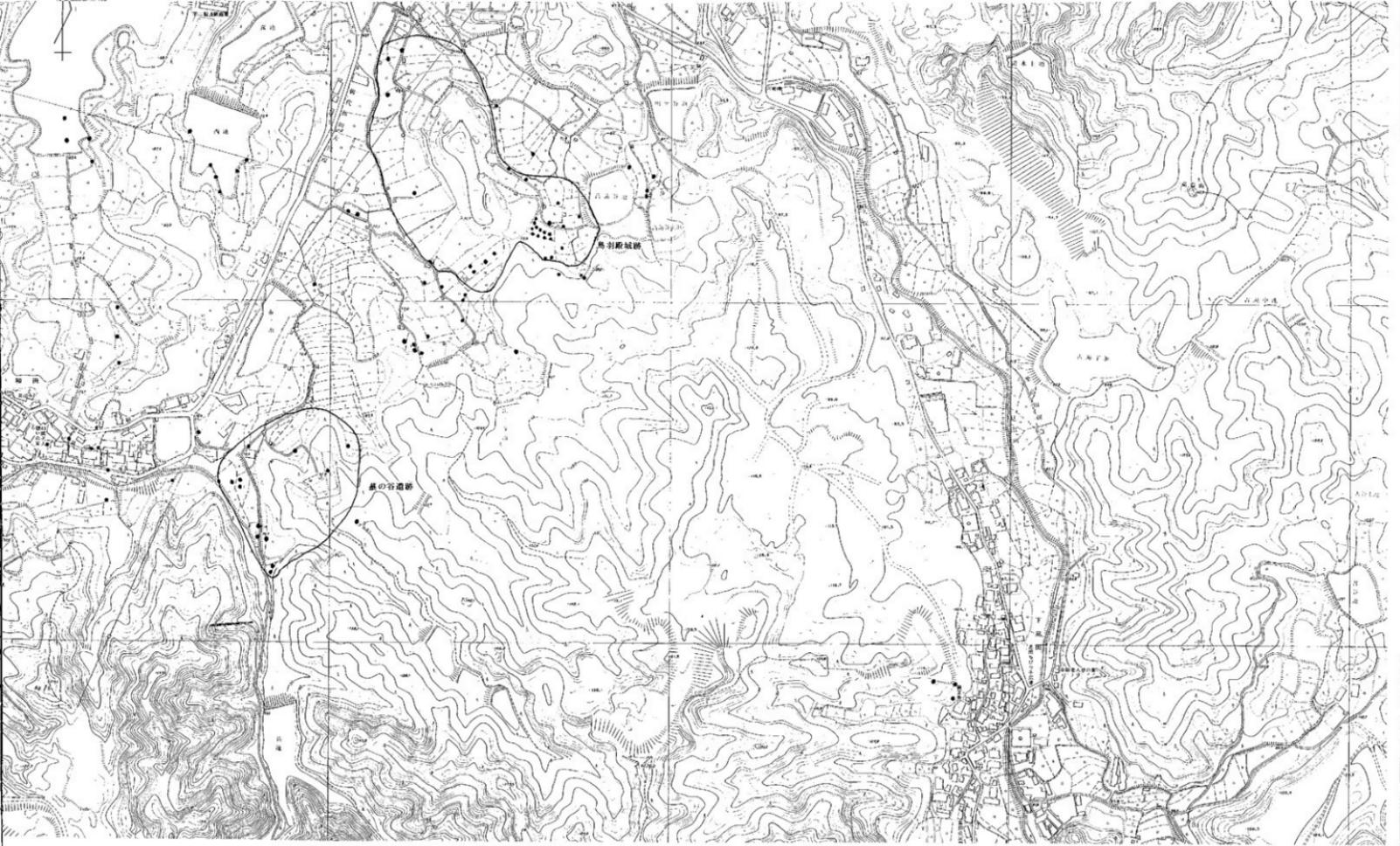
分布調査の対象となった地域は、熊取町の南部で和田、高田の両地区にまたがる山林及び平地部である。今回の分布調査では南海電気鉄道株式会社の所有地を中心として行ったが、一部これらに接する田畠、山林も調査の対象とした。

#### 調査方法

調査は、地表面の観察と遺物表面採取を基本としておこなった。遺物の表面採取については、複数の調査者が同地点を踏査するよう配慮し、山林部についても可能な限り踏査を試みた。また調査区域内の高田興正寺裏の山間部については既に掘削されており、調査不可能であるため調査区域から除外した。



第2図 南部開発予定地位置図



第3図 遺物採集地点図

## 第 2 章 調 査 成 果

### 第 1 節 各地点の状況

#### 第 1 地点

西の池の南側で池堤部と狭い丘陵部があり、ここから数個の近世遺物を採取した。

#### 第 2 地点

山間部から派生した丘陵部で、小字名が鳥羽殿とされていることから城郭跡ではないかとみられている。中世とみられる瓦片が数点と瓦器片、近世磁器を採取することができた。

#### 第 3 地点

西の池の西側で丘陵である。遺物は採取できなかった。

#### 第 4 地点

和田の集落付近で、主に田畠地を踏査した。ここからは近世遺物として染付の破片を採取した。

#### 第 5 地点

山間部の谷で、地形を有効に利用した溜池が点在している。遺物は採集できなかった。

#### 第 6 地点

高田興正寺の西側にあたる地点であるが、かなりの掘削が行われており調査は不可能であった。しかし寺の裏側で寺のものとみられる瓦の破片を採集することができた。

#### 第 7 地点

菖蒲谷池に面した山の斜面部で、雨水を集めるのが目的とみられる瓦状のものを積んだ跡が存在していた。

#### 第 8 地点

小字名では寺山にあたる地点で、削平されたテラス状の地形である。平安時代とみられる瓦の破片が採集されている。

#### 第 9 地点

和田の集落の南に位置する山間部で、遺物は採集できなかった。

## 第 2 節 採集遺物

平安時代から江戸時代にかけての各時期の遺物が表採された。その大部分は平地部が多い傾向を示した。

### 瓦

第 6 図 2 は小字名寺山にあたる地点で、採取した凸面に縄目があり凹面に布目と平行タタキメをもつ瓦である。平安末期の瓦とおもわれる。2 の凹面に布目・凸面に圧痕が数ヶ所みられる。中世の瓦とおもわれる。

### 近世瓦

第 6 図 3 は高田興正寺より西へ 100 m 程離れた山間部で採取した。左回りの巴文である。巴文の模様の頭部が小さくやや尾が長いが焼成や胎土が良い。2 は軒平瓦でやはり近世のものである。周縁が広く唐草文が小さい。

### 土鉢

鳥羽殿の東側の田で多量に採取した。網の沈子として利用されたものであるが使用目的は不明である。時期は断定はできないが近世とおもわれる。

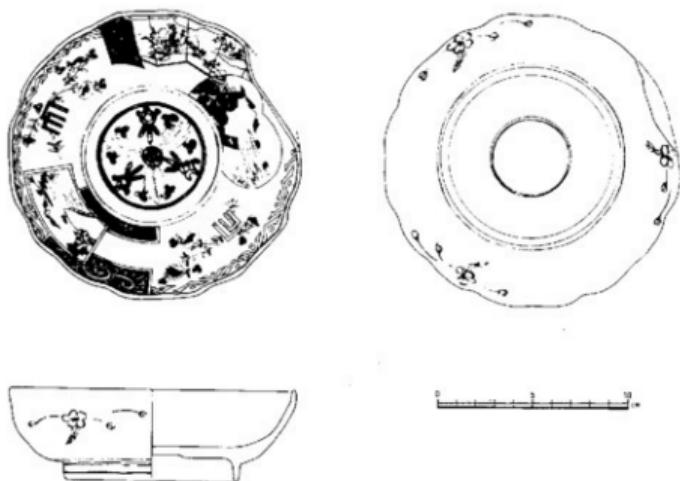
### 瓦器

鳥羽殿の東の田で採取した破片であるが摩滅が進んでいる。小片であるため図化できない。

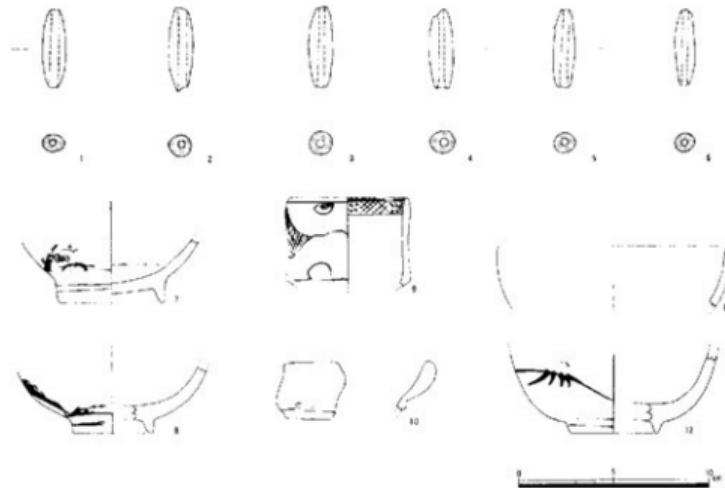
### 近世伊万里染付

第 4 図 7. 8. 9. 10. 11. 12 は伊万里の染付である。主に田畠部で採取できた。また 10 は白磁の鉢とおもわれるが器種は断定できない。第 5 図色絵の染付は江戸時代中期時代以降のもので、みごとに三ツ葉文がみられる。また高台の裏面に蛇の目に釉をかきとった跡がみうけられる。

これらの遺物のはかにもサメカイトの剥片や須恵質の破片、土師質の破片、ハナレズナの付着した瓦片も採取されている。



第4図 採集遺物(1)



第5図 採集遺物(2)



第6図 採集遺物(3)

## 小 結

今回の分布調査は一般的な踏査方法により、山間部では尾根谷筋を中心に、平地部では田畠一枚一枚を丹念に行った。その結果、広範囲に及ぶ遺物の散布状況の把握ができ、同時に平安時代末期から近世に至る遺物を多数採取することができた。これらの遺物の散布状況からみるかぎり、未確認遺跡の存在が十分予想できる。

今後さらに試掘調査等を行い、その性格及び範囲等を究明していく必要があると考える。

### 第3章 植物分布と小字名について

#### 植物分布について

調査区域内における植物の分布については「熊取町の植物」では第7図のような植物分布が示されている。和田川周辺地区にはマツリョウ、コクラン、サフランモドキなどが稀な存在として示されている他、モウセンゴケの自生地として大池の南側があげられている。



第7図 調査区域周辺植物分布図

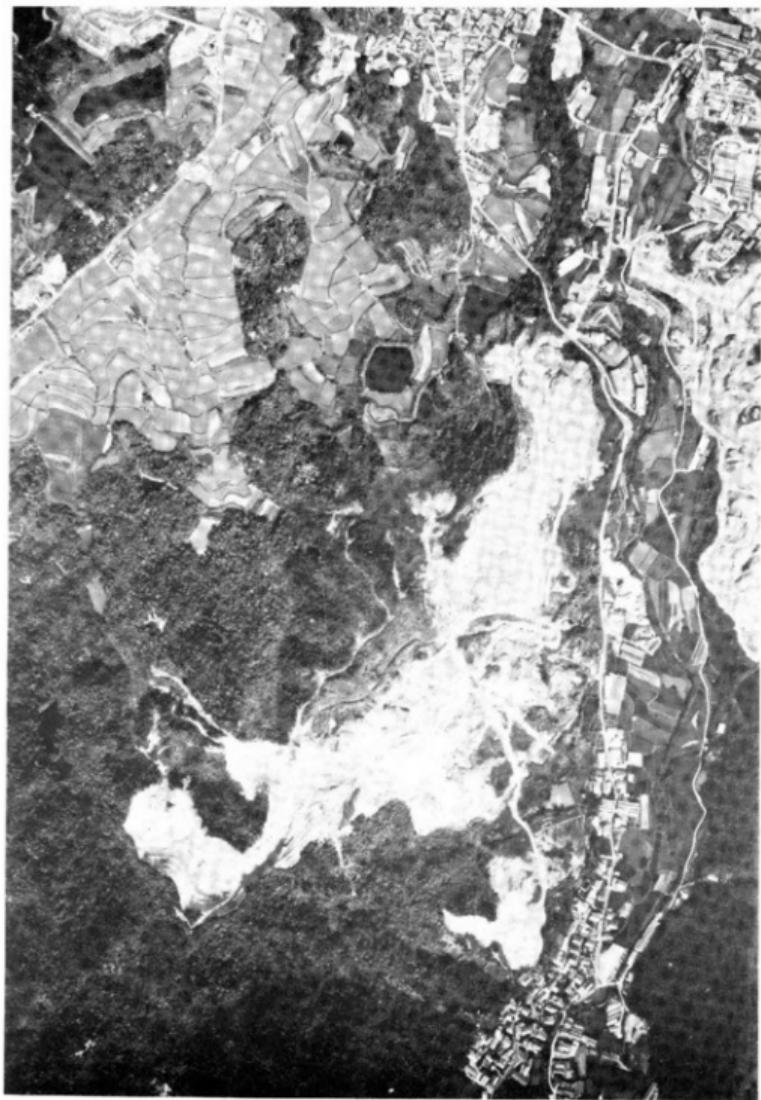
#### 小字名について

調査区域内には遺跡に関連すると思われる小字名は特にみあたらない。高田の堂の山、堂の谷、また和田の寺山が注意すべき小字名と思われるが寺などの所有している山と解釈するのが妥当だと思われる。

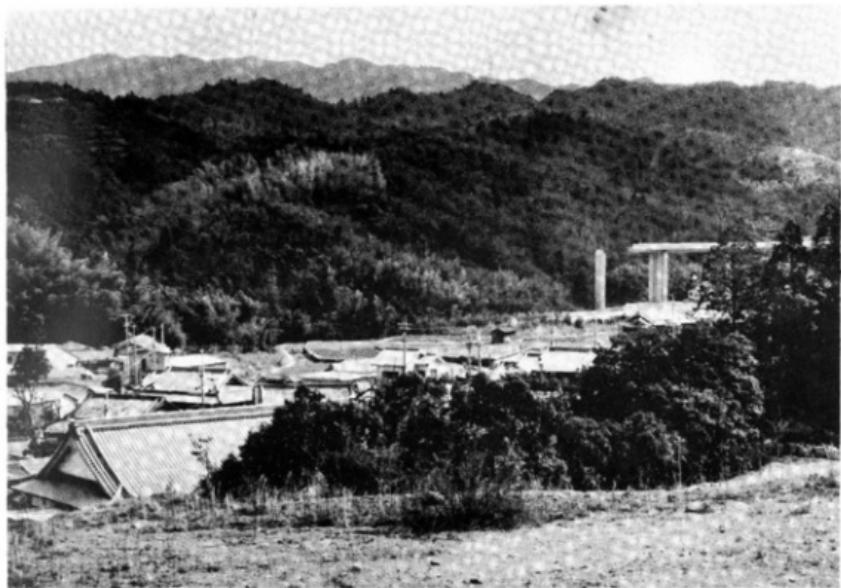
# 図 版



調査区周辺航空写真(西半部)



調査区周辺航空写真（東半部）



高田興正寺周辺



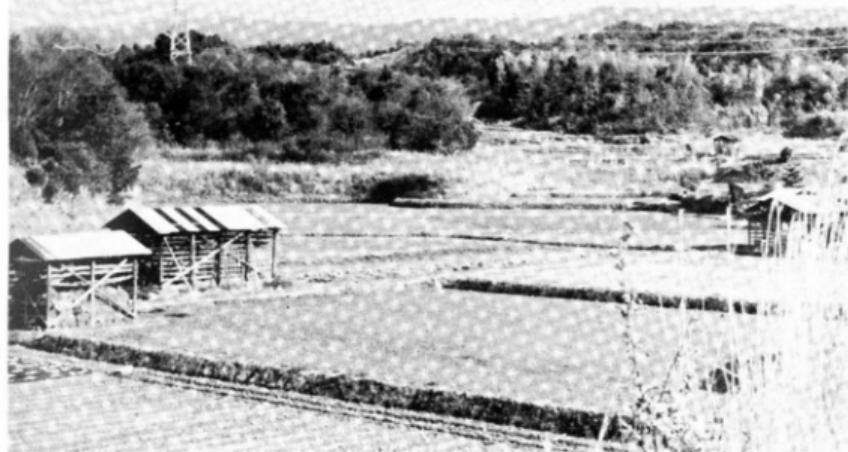
下高田周辺



菖蒲谷池より北を望む



高田興正寺より北西を望む



南山の手台より調査区域を望む



市の池方向を望む



西の池



和田の道標(地蔵)

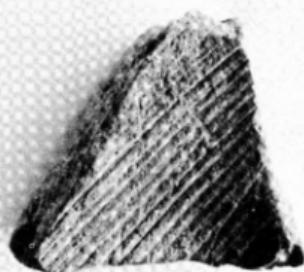


重要文化財来迎寺本堂

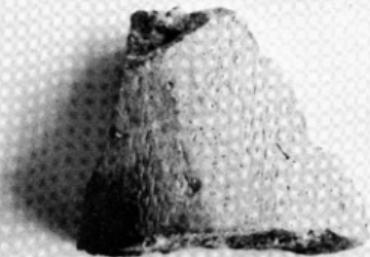


表採瓦

圖版第八表採遺物



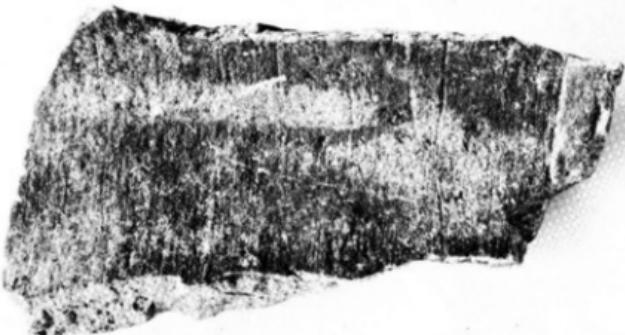
表採瓦凹面



表採瓦凸面



表採瓦凸面



表採瓦凹面

図版第十表 採遺物



表採遺物

